

インストールガイド
Magic Application Server for Linux

Magic
eBusiness
PlatformTM V9

本マニュアルに記載の内容は、将来予告なしに変更することがあります。これらの情報について MSE (Magic Software Enterprises Ltd.) および MSJ (Magic Software Japan K.K.) は、いかなる責任も負いません。

本マニュアルの内容につきましては、万全を期して作成していますが、万一誤りや不正確な記述があったとしても、MSE および MSJ はいかなる責任、債務も負いません。

MSE および MSJ は、この製品の商業価値や特定の用途に対する適合性の保証を含め、この製品に関する明示的、あるいは黙示的な保証は一切していません。

本マニュアルに記載のソフトウェアは、製品の使用許諾契約書に記載の条件に同意をされたライセンス所有者に対してのみ供給されるものです。同ライセンスの許可する条件のもとでのみ、使用または複製することが許されます。当該ライセンスが特に許可している場合を除いては、いかなる媒体へも複製することはできません。

ライセンス所有者自身の個人使用目的で行う場合を除き、MSE または MSJ の書面による事前の許可なしでは、いかなる条件下でも、本マニュアルのいかなる部分も、電子的、機械的、撮影、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、電送を行うことはできません。

サードパーティ各社商標の引用は、MSE および MSJ の製品に対するコンパチビリティに関しての情報提供のみを目的としてなされるものです。

本マニュアルにおいて、説明のためにサンプルとして引用されている会社名、製品名、住所、人物は、特に断り書きのないかぎり、すべて架空のものであり、実在のものについて言及するものではありません。

Magic は Magic Software Enterprises Ltd. のイスラエルその他の国での商標または登録商標です。

Magic eDeveloper、Magic Client および Magic Application Server は Magic Software Japan K.K. の商標です。

Pervasive.SQL は Pervasive Software, Inc. の商標です。

Microsoft および FrontPage は、Microsoft Corporation の登録商標です。また、Windows、WindowsNT および ActiveX は Microsoft Corporation の商標です。

Oracle は Oracle Corporation の登録商標です。

一般に、会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

MSE および MSJ は、本製品の使用またはその使用によってもたらされる結果に関する保証や告知は一切していません。この製品のもたらす結果およびパフォーマンスに関する危険性は、すべてユーザーが責任を負うものとします。

この製品を使用した結果、または使用不可能な結果生じた間接的、偶発的、副次的な損害（営利損失、業務中断、業務情報の損失などの損害も含む）に関し、事前に損害の可能性が警告されていた場合であっても、MSE および MSJ、その管理者、役員、従業員、代理人は、いかなる場合にも一切責任を負いません。

第 1 版 2003 年 6 月 30 日 Ver9.3SP5

Copyright 2001-2002 Magic Software Enterprises Ltd.and Magic Software Japan K.K. All rights reserved.

目次

1 はじめに

動作環境について.....	1
アプリケーション開発について	1
インストールに必要な知識	1
本書の構成.....	1
インストールの構成.....	2
Magic で必要な主な環境変数（シェル変数）.....	3
日本語文字コードの扱いについて	4
Magic Application Server for Linux での文字コードの扱い	4
Magic モジュール間通信での文字コード	4
インターネットリクエストでの文字コードの扱い	4
HTML マージプログラムについて.....	4
ブラウザクライアントについて	4
文字コード設定とパフォーマンスについて	4
Linux サーバーでのファイル名、ディレクトリ名について	5
Oracle 使用の際の文字コードの注意点	5
メール関数での文字コードの扱い	5

2 Magic Application Server for Linux のインストール

ハードウェア要件の確認	7
Magic ユーザアカウントの作成	7
インストーラの環境設定における留意点	7
インターネット・リクエスト、及びブラウザクライアントモジュールを格納する ディレクトリを確保する	7
インストールモジュールの解凍	7
セットアップスクリプトの実行	8
デモアプリケーションのセットアップ（推奨）	10
Web サーバの設定変更	12
環境変数の確認.....	12

3 各モジュールの起動と動作確認

ネットワークの確認.....	13
Web サーバの動作確認.....	13
Magic CGI リクエストの動作確認	14

MRB(Magic Requester Broker) の動作確認.....	14
ライセンスサーバーの実行	16
Magic アプリケーション・サーバーエンジンの起動テスト	16
データベースゲートウェイのロードテスト (Oracle 用ゲートウェイ)	17

4 デモ用アプリケーションの起動と動作確認

デモアプリケーションの起動	19
デモアプリケーションの MRB への登録確認.....	19
ブラウザからのアプリケーションの実行	20
HTML 形式 Web プログラム動作確認.....	20
ブラウザクライアント・プログラムの動作確認	21
Oracle ゲートウェイの動作確認.....	23

5 Apache 用リクエストのインストールと設定

リクエストモジュールファイルの配置	25
Apache 設定ファイルの変更	25
MAGIC.INI の変更.....	26
Apache リクエストの動作確認	26
CGI リクエストの場合	26
Apache リクエストの場合	26

6 ライセンスの登録

ホスト ID の確認	27
ユーザ登録申請.....	27
ライセンス登録.....	28
Windows 版のライセンスサーバを使用する場合	30

7 アプリケーションの登録

CTL ファイルの準備.....	31
フラットファイルを使用する場合	31
MCF ファイルを使用する場合.....	31

A コマンドラインリクエスト

はじめに

1

動作環境について

Magic Application Server for Linux の動作環境については、別途添付されている Readme ファイルを参照してください。

アプリケーション開発について

Magic Application Server for Linux はサーバ機能だけなので、Magic アプリケーションを開発するには Magic eDeveloper Ver.9 Windows 版が必要です。アプリケーションを Linux 版で実行するには、Magic eDeveloper で作成したアプリケーションを MFF ファイル (Magic Flat File : バイナリ形式のコントロールファイル) として出力したものを使用します。

インストールに必要な知識

インストール処理を行うユーザには、中級のシステム管理者と同程度の知識が必要です。インストールモジュールは、tar.gz 形式のアーカイブになっており、これを展開した後でセットアップ用のシェルスクリプトを実行する形になります。

本書の構成

Web アプリケーション実行時のリクエストと結果の伝達経路は下図のようになっています。本インストール手順書では下図の情報の経路に沿って動作確認を行います。本書の動作確認のパートはインストール後の動作確認だけでなく、システムの構成や設定を変更した際に、ステップバイステップで動作確認とトラブルシューティングができるように構成されています。

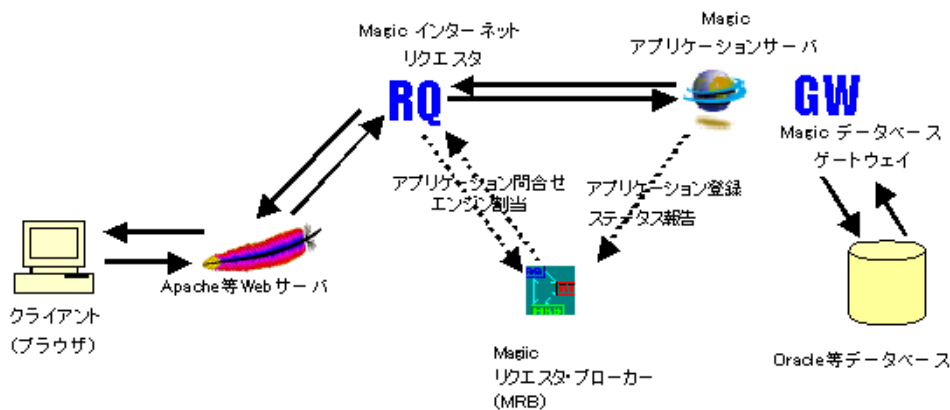


図 1-1 ネットワーク構成

インストールの構成

インストールは、Magic ユーザーのホームディレクトリ以下に Tar 形式のアーカイブファイルを展開し、いくつかのスクリプトを実行することによって、設定を行います。Magic ユーザのホームディレクトリ以下に展開されるディレクトリと主なモジュールは以下の通りです。

- `mginstall`……インストールの基本スクリプトです。
- `bin` ディレクトリ……Magic の実行モジュールが入っています。
 - `magicrnt`……Magic Application Server の本体モジュールです。
 - `mgdb2` ……現在は使用できません。
 - `mgmemory`……メモリーゲートウェイ
 - `mgodbc`……現在は使用できません。
 - `mgoracle8` ……Oracle ゲートウェイ
- `broker` ディレクトリ……MRB に関連するモジュールが入っています。
 - `mgrqmr` ……Magic Request Broker(MRB)
 - `MGRB.INI`……MRB 用設定ファイル
 - `mgrqcmdl`……コマンドライン・リクエスト
- `cgibin` ディレクトリ……インターネット・リクエストに関連するモジュールが入っています。
 - `MGREQ.INI` ……Magic インターネットリクエスト用設定ファイル
 - `mgrqcgi93` ……Magic CGI リクエスト
 - `mod_mgrequest93.so`……Apache 用リクエストモジュール
 - `mod_mgrequest93.so.NO_EAPI`……Apache 用リクエストモジュール
- `etc` ディレクトリ……各種環境設定に関するファイルが入っています。
 - `MAGIC.INI` ……Magic Application Server の設定ファイル
 - `MGREQ.INI` ……Magic Application Server の通信用設定ファイル
 - `mgenv` ……ユーザーがログインしたときに必要な環境変数を設定します。`.cshrc`、`.bashrc`、`.profile` から呼び出されます。
 - `license.dat` ……ライセンスファイルです。Windows 版のライセンスマネージャーで登録したファイルと置き換えて使用します
 - `[dot]` ファイル ……(`.cshrc`、`.bachrc`、`.profile`) インストール時にホームディレクトリの同名のファイルに追加されます。Magic で必要な設定を保存しています。
 - `*.jpn`、`*.eng`……Magic で使用する各種テンプレートファイル
- `language` ディレクトリ……日本語用のライブラリモジュールが入っています。
 - `mglocal.jpn` ……日本語用ライブラリ
- `lib` ディレクトリ ……Magic が使用するライブラリが入っています。

- libxerces-c1_6_0.so……Magic Application Server の動作に必要なライブラリです。
- license ディレクトリ……ライセンスサーバーが入っています
 - mglmstart……ライセンスサーバー起動用スクリプト
 - mglmstop……ライセンスサーバー停止用スクリプト
 - lmgrd などその他のファイル・ライセンスサーバー実行モジュール
- log ディレクトリ……Magic Application Server の実行ログが作成されます。ログの作成ディレクトリやファイル名を変更したい場合は、MAGIC.INI ファイルの [MAGIC_ENV] セクションのパラメータ、Monitor2File の値を修正して下さい。また、同セクションで LoadMonitor=Yes と設定することにより、etc/MGFLWMTR.INI の指定に基づいた詳細のログが出力されます。
MGFLWMTR.INI の指定内容については、Windows 版『リファレンス』の「ユーティリティ」の章の「フローモニタ/デバッガ」の説明を参照してください。
- sbin ディレクトリ……各種スクリプトが入っています。
 - mgroot.sh……インストール時のみ使用するスクリプトです。
 - demo_setup.sh……インストール時のみ使用するスクリプトです。
 - demoroot.sh……インストール時のみ使用するスクリプトです。
 - mgrnt……Magic Application Server を起動するスクリプトです。
 - checkm……実行中の Magic Application Server をチェックするスクリプトです。
 - stopm……実行中の Magic Application Server を停止するスクリプトです。
 - startb……MRB を起動するスクリプトです。
 - stopb……MRB を停止するスクリプトです。
- userproc ディレクトリ……ユーザープロシージャのサンプルが入っています。
- web_utils ディレクトリ……ブラウザクライアントモジュールが入っています。
- VerifyDemo ディレクトリ……動作確認用のデモが入っています。

Magic で必要な主な環境変数（シェル変数）

Magic で必要な環境変数は \$MAGIC_HOME/etc/mgenv で設定されます。インストール時にはインストーラーが適切な値を設定します。

- MAGIC_HOME……Magic ユーザーのホームディレクトリ
- MAGIC_DB_14_DRIVER……Oracle ゲートウェイのモジュールを指定します。
- MAGIC_DB_22_DRIVER……メモリーゲートウェイのモジュールを指定します。
- MGENV……Magic Application Server が起動時に読み込む設定ファイルを指定します。（デフォルトは MAGIC.INI）
- MGLOCAL……言語（日本語）用ライブラリモジュールを指定します。

日本語文字コードの扱いについて

Magic Application Server for Linux での文字コードの扱い

Magic Application Server for Linux では MAGIC.INI ファイルの [dbMAGIC_ENV] セクションで MgLang を設定することにより、テキストファイルの入出力など、外部とのやり取りを行う文字コードを切り替えることができます。

- EUC を使用する場合 ……MgLang=JPN.EUC
- SJIS を使用する場合 ……MgLang=JPN.SJIS (デフォルト / 未設定の場合)

EUC コードを使用する場合は、以下の点の注意してください。

Magic アプリケーションを開発する際に、タスクの入出力ファイルの特性の設定で、「使用する文字セット」を「O=OEM」を選択するようにしてください。「A=Ansi」に設定されているファイルに対してはコード変換は行われません。また、Web アプリ用の HTML ファイルは EUC に変換しておきます。

Magic モジュール間通信での文字コード

前項の MG_LANG の設定に関わらず、Magic Application Server/Magic Request Broker/Magic CGI requester/Magic Apache requester module の各モジュール間の通信は SJIS で行われています。

インターネットリクエスタでの文字コードの扱い

インターネットリクエスタ (Magic CGI リクエスタ、Apache リクエスタモジュール) が使用する MGREQ.INI ファイル内の [REQUESTER_ENV] セクションで MgLang を設定することにより、Web サーバー間との通信の文字コードを切り替えることができます。

- EUC を使用する場合 ……MgLang=JPN.EUC
- SJIS を使用する場合 ……MgLang=JPN.SJIS (デフォルト / 未設定の場合)

HTML マージプログラムについて

HTML マージプログラムでテンプレートとして使用する HTML ファイルは、Application Server の MgLang の設定により読み込む際のコードが選択可能です。この場合、全ての HTML テンプレートファイルに対して適応されますので、プログラムや HTML ファイル毎の読込コードの切替はできません。

ブラウザクライアントについて

ブラウザクライアントでは、ブラウザに送信される文字コードは SJIS のみになります。ただし、テンプレートとして使用する HTML ファイルは、Application Server の MgLang の設定により読み込む際のコードが選択可能です。この場合、全ての HTML テンプレートファイルに対して適応されますので、プログラムや HTML ファイル毎の読込コードの切替はできません。

文字コード設定とパフォーマンスについて

Magic のモジュール内部では文字コードは SJIS で処理されています。Magic Application Server、或いはインターネットリクエスタ (CGI リクエスタ、Apache リクエスタモジュール) において、EUC 文字コードの使用を設定した場合、すべての文字型変数の入出力に対してコード変換ロジックが適応されます。したがって、デフォルト (SJIS) 設定時と比較して、パフォーマンスが低下する可能性があります。

Linux サーバーでのファイル名、ディレクトリ名について

Linux では日本語文字コードとして EUC が使用されています。このため、全角文字や半角カタカナのファイル名やディレクトリ名を使用すると、ファイルアクセスに支障をきたす場合があります。Magic Application Server for linux で使用するファイル名、ディレクトリ名には、半角英数字を使用するようお願いいたします。

Linux ではファイル名に対して大文字・小文字を区別します。MAGIC.INI、MGRB.INI、magicrnt など Magic が提供するモジュールファイル名や設定ファイル名の大文字・小文字は変更しないようにしてください。変更されていると別ファイルとみなされますので、正常に動作しなくなります。Winodws 系のシステムとの ftp 等でのファイル転送の際に、ファイル名の大文字・小文字が変わらないように注意してください。

Oracle 使用の際の文字コードの注意点

MgLang の設定に関わらず、Magic 動作環境での Oracle 環境は SJIS に設定してください。
(NLS_LANG=Japanese_Japan.JA16SJIS)

Magic は Oracle ゲートウェイを使用して Oracle と通信するときは常に SJIS を使用します。

メール関数での文字コードの扱い

メール関連の関数を使用する場合、メール本文、タイトル、貼付ファイル名は JIS コードに変換されて送信されます。その際、半角カタカナは全角カタカナに変更されます。

メール関数の機能を使用して添付ファイルを送信する場合、デフォルトでは Magic は SJIS コードの日本語ファイル名でファイルを検索し、該当するファイルが存在しなければエラーとなります。また貼付ファイルを保存する場合も SJIS コードのファイル名で保存します。

MAGIC.INI ファイルの [dbMAGIC_ENV] セクションで MailFileCode を設定することにより、貼付ファイルの送信及び保存に使用するファイル名の文字コードを切り替えることができます。

- EUC を使用する場合 …… MailFileCode=JPN.EUC
- SJIS を使用する場合 …… MailFileCode=JPN.SJIS (デフォルト / 未設定の場合)

上記設定で EUC が選択されている場合、次の二つが有効になります。なお、この設定は起動時に有効になり変更できません。またファイル毎、あるいは実行毎に変更することは出来ません。

- MAILSEND() 関数を使用して、Linux 上にあるファイルをメールに貼付するとき、Linux 上で指定するファイル名に EUC コードを指定する。
- MAILFILESAVE() 関数を使用して、貼付ファイルを Linux 上に保存するとき、ファイル名を EUC コードで作成する。

注意： 変更されるのはファイル名だけであり、ファイルの内容には適応されません。

[このページは意図的に空白にしています。]

Magic Application Server for Linux のインストール

2

2

ハードウェア要件の確認

インストール先の Magic Administration User のホームディレクトリ（インストール先のデフォルト設定）以下の空きスペースが 60MB 以上あることを確認します。

Magic ユーザアカウントの作成

root ユーザでログインし、Magic を使用するユーザアカウントを作成してください。Magic のインストールには root ユーザ権限でのスクリプトの実行が必要な箇所がありますので、root 権限での操作ができる方がインストールを行ってください。

インストーラの環境設定における留意点

Magic インストーラは bsh、bash、csh に対応しています。（.cshrc、.bashrc、.profile に環境変数を追加します。）。これらの初期化ファイル以外を使用するシェルをお使いの場合は、シェルの起動時に必要な環境変数が設定されるように調整してください。

また、Magic インストーラは Apache を Web サーバとして使用する前提で作成されています。その他の Web サーバをお使いの場合、Magic インストーラで設定ファイルが作成されませんので、手作業で環境を調整する必要があります。

また、デモにおける設定は、単一の Linux マシン上に Web サーバ、Magic アプリケーションサーバ、MRB、及びライセンスマネージャーを使用する前提で設定されています。各モジュールを異なるハードウェアで使用する場合は、設定の調整が必要となります。

インターネット・リクエスタ、及びブラウザクライアントモジュールを格納するディレクトリを確保する

ローカルホスト (Linux) が使用している WEB サーバで CGI を配置するディレクトリ (通常、/usr/local/httpd/cgi-bin のディレクトリになります。Redhat7.X 系ディストリビューションの Apache では /var/www/cgi-bin/ になります。) に root ユーザに対する書き込み権限、及び全てのユーザに対する読み取り権限を与えておいてください。

次に、ブラウザクライアント用のユーティリティファイルを配置するディレクトリを作成し、パス名を記録しておいてください。このパス名はインストール時に使用します。また、このディレクトリも、上記と同様に権限の付与をしておいてください。

(このディレクトリはインストーラのデフォルトでは、/usr/local/httpd/magic9utils/ に設定されています。Redhat7.X 系をご使用の場合は /var/www/magic9utils/ 等にとりやすいでしょう。)

インストールモジュールの解凍

Magic ユーザを作成しログインします。Magic ユーザのホームディレクトリにインストールモジュールを解凍します。

```
tar xzvf /tmp/Magic_for_Linux_930JSP5a.tar.gz
```

ls コマンドで正常に展開されているか確認します。

```
$ ls
bin  cgin language license  sbin  web_utils
VerifyDemo broker etc  lib   mginstall userproc
```

セットアップスクリプトの実行

インストール・セットアップ・スクリプトを実行します。インストールスクリプトは全てシェルスクリプトですので、入力に失敗したときは [Ctrl] + [C] 等でいつでも中止できます。

```
$ ./mginstall
```

下記のような画面が表示されます。インストールを続けるにはそのまま [Enter] を押してください。

```

          Magic 9 Installation Procedure
          -----
mginstall is an interactive shell script to help you install the
Magic 9 Server for Linux.

You may press CTRL+C to exit this script at any time and start again.
When asked to type <CR>, press ENTER.

Type <CR> to continue...
```

インストーラのログファイルの生成場所が表示されます。

```
The Installation log file is /u/mginsttest/inst_log.
```

```

          Magic 9 Server Installation
          -----
1. Enter the Magic Broker information (host/port or port) (default: 3200) :
```

MRB (Magic Requester Broker) の情報を入力します。デフォルトでは、Linux 上にポート番号 3200 を使用する MRB を配置する構成となっています。ポート番号を変更する場合は番号を入力します。また、Windows マシン上の MRB を使用する場合は、そのマシンのホスト名とポート番号を入力します。(例： win_host/3200)。

```
2. Enter the Magic Broker password (default: password) :
```

MRB のブローカーパスワードを入力してください。Windows マシン上の MRB を使用する場合は、その MRB のパスワードを入力します。この設定は後に設定ファイルを編集することで変更可能です。

3. Enter license server address (default: 1744@hostname)

Magic エンジンの実行に必要なライセンスサーバーのアドレスを指定します。Windows マシン上のライセンスサーバーを使用する場合は、1744@ の後にホスト名を入力します。通常はローカルホスト上にインストールします。本書では、ローカルホスト (Linux) 上にライセンスサーバーがあるとして説明を行っています。

4. Enter the Web Server alias for accessing the Magic CGI Requester (default: /cgi-bin) :

ブラウザから URL でリクエストを呼び出すエイリアス名です。通常はデフォルトで使用します。

5. Enter the file path to /cgi-bin alias (default: /usr/local/httpd/cgi-bin) :

ローカルホスト (Linux) が使用している WEB サーバで CGI を配置するディレクトリを正確に入力してください。デフォルト値は一般的な Apache Web サーバのものですが、Apache のバージョンやディストリビューションにより場所が異なる場合があります。例えば、RedHat 7.X ディストリビューションの Apache ではこのディレクトリは /var/www/cgi-bin/ になりますので、そのように入力します。また、他の Web サーバの場合も確認が必要です。

6. Enter the destination directory for the Magic Utility files (default: /usr/local/httpd/magic9utils) :

このディレクトリにはブラウザクライアント用のユーティリティファイルが置かれます。このディレクトリも予め作成の上、正確なパスを入力してください。(RedHat 7.X の場合は /var/www/magic9utils の指定を推奨)

You have chosen to install Magic using the following information:

 Magic will use broker 3200 with the supervisor password password.

The Magic CGI requester will be placed in /usr/local/apache/cgi-bin and will be accessed using the alias /cgi-bin

The Web utility files will be placed in directory /usr/local/apache/magic9utils

Would you like to proceed using the above information (Y or N)? y

これまでに入力した情報が表示されます。情報に間違いがある場合は [Ctrl] + [C] を押してインストーラを中止してください。

[Y] を押すとインストールを続行します。

For setting the Apache Web Server, append the file /home/magicadm/web_utils/magic.conf to the Apache configuration file (httpd.conf).

Apacheの設定ファイルに追加すべきファイルが作成されていますが、デモのセットアップでも Apache の設定ファイルへの追加作業が発生しますので、この作業はあとで行います。デモをインストールしない場合は、ここで作業を行って下さい。(作業手順は「Web サーバの設定変更」を参照してください)。

```
To complete the Magic installation, run sbin/mgroot.sh script as the root user.  
[mginsttest@rh71osaka ~] $
```

次に、ホームディレクトリ下に `sbin/` というディレクトリがありますので、その中の `mgroot.sh` を root ユーザで実行します。

```
$ su  
# cd sbin  
# ./mgroot.sh  
# exit
```

デモアプリケーションのセットアップ (推奨)

引き続きデモのセットアップを行います。デモアプリケーションのセットアップを行わない場合は、このステップを飛ばして、Web サーバの設定変更へ進んでください。本手順書ではデモアプリケーションを使用して、インストールと各モジュールの動作確認を行うようになっていきますので、本書を使用して動作確認を行う場合は、デモをセットアップ行ってください。

なお、デモ用のファイルは選択肢に関らず既に展開されています。デモをセットアップせず、かつファイルが不要な場合はホームディレクトリ以下の `VerifyDemo/` ディレクトリごと削除してください。

注意 : この動作確認デモでは、Oracle をデータベースとして使用します。セットアップスクリプトでは、オラクルのユーザ、パスワード、及び接続文字列を入力するようになっています。デモのセットアップを行う前に、予め `sqlplus` を実行し (ユーザ/パスワード@接続文字列 : 例 `scott/tiger@orcl`)、これらの情報で Oracle データベースに接続できる事を確認しておいてください。

デモのセットアップスクリプトを実行します。

```
$ cd sbin  
$ ./demo_setup.sh
```

Magic 9 Demo setup

This is an interactive shell script to help you setup
Magic 9 Demo application.

You may press CTRL+C to exit this script at any time and start again.
When asked to type <CR>, press ENTER.

Type <CR> to continue...

デモ用のセットアップの画面です。[Enter] を押して続行します。

The Installation log file is /u/mginsttest/magic9demo/demoinst_log.

現在のデモはOracle を使用するようになっています。Oracleユーザの情報を入力します。

1. Enter the Oracle user name (default: scott) :
2. Enter the password for Oracle user scott (default: tiger) :
3. Enter the connect string for Oracle (default: orcl) :

4. Enter the directory to store HTML files for Install Verify Demo (default: /usr/local/httpd/mgVerifyDemo) :

デモ用のHTMLファイルを格納するWebサーバ用のディレクトリを予め作成しておき、そのディレクトリを指定します。このディレクトリへは mgVerifyDemo というエイリアスが作成されます。

You have chosen to setup Magic demo application using the following information:

Demo application will use requester /cgi-bin/mgrqcgi93.

Magic demo will use the following Oracle settings:

Username scott, Password tiger, Connect String orcl.

HTML files for Demo will be copied to /usr/local/httpd/mgVerifyDemo.

Would you like to proceed using the above information (Y or N)? y

入力した情報の再確認です。正しければ「Y」を押して続行します。

```
Verify Demo setting completed successfully.
```

次に、sbin/ ディレクトリにある

```
demoroot.sh
```

を root ユーザで実行します。

```
$ su
# ./demoroot.sh
```

この時点でデモ用のディレクトリが作成されていない場合は、ディレクトリを作成するかどうか尋ねられます。Yes を入力すると自動的にディレクトリが展開されます。

以上でデモアプリケーションのセットアップは終了です。

Web サーバの設定変更

次に、Web サーバに必要な設定を行います。この作業は root ユーザで行います。

ホームディレクトリ下に web_utils/ というディレクトリがありますので、その中の

```
magic.conf
```

```
demo.conf (デモをセットアップした場合のみ)
```

の 2 つを、Web サーバが使用する httpd.conf のファイルの最後に追加し、Web サーバを再起動してください。なお、httpd.conf の場所は 通常は /etc/httpd/conf/httpd.conf にありますが、アパッチのバージョンによって異なる場合がありますので、適切なファイルを選択してください。

環境変数の確認

一度ログアウトし、Magic ユーザで再度ログインしてください。以下のコマンドで MAGIC_HOME の環境変数が設定されているかどうか調べます。設定されていない場合は、何も表示されません。

```
$ env | grep MAGIC_HOME
MAGIC_HOME=/home/magicsdm
$
```

Magic では B シェル、BA シェル、C シェル用に .csh、.profile、.bashrc ファイルに必要な環境変数を設定しており、MAGIC_HOME もそのうちの一つです。上記のテストで何も表示されない場合、必要な環境変数群が設定されていないと考えられます。ご使用のシェルに対応したファイルを確認してください。

なお、それ以外のシェルを使っている場合は、これらのファイルを参考に必要な初期スクリプトファイルを作成してください。

各モジュールの起動と動作確認

3

ここでは、インターネット・エクスプローラーを使用し、他のマシンからデモを実行させながら、各モジュールの動作確認を行います。動作確認は下図の Web アプリケーション実行時のリクエストと結果の伝達経路に沿って動作確認を行います。このパートは、インストール後の動作確認だけでなく、システムの構成や設定を変更した際に、ステップバイステップで動作確認とトラブルシューティングができるように構成されています。

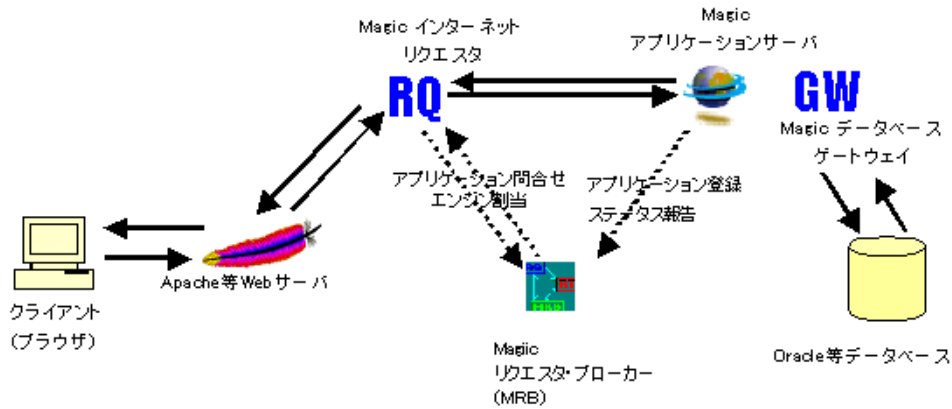


図 3-1

ネットワークの確認

クライアントのマシン上で OS 画面を呼び出して

```
ping linuxhost
```

(linuxhost は Magic をインストールしたホストの名前) のコマンドでネットワークの確認をします。

問題がある場合は、双方のマシンの hosts ファイルの内容、ファイヤーウォールなどのセキュリティの設定を確認してください。

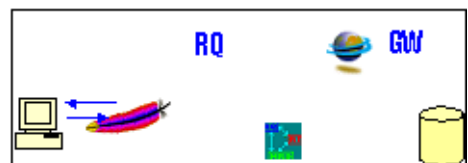
Web サーバの動作確認

クライアントのブラウザを使用して

```
http://linuxhost
```

(linuxhost は Magic をインストールしたホストの名前)

と入力し、Web サーバが動作していることを確認してください。



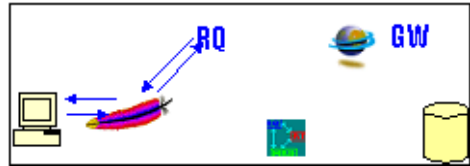
Magic CGI リクエストの動作確認

注意： (Apache用リクエストの設定については第5章「Apache用リクエストのインストールと設定」を参照してください。)

このテストはローカルホスト (Linux) 上の MRB を使用する設定であると仮定しています。

クライアントのブラウザから

```
http://linuxhost/cgi-bin/mgrqcgi93
```



(linuxhost は Magic をインストールしたホストの名前) と入力してください。

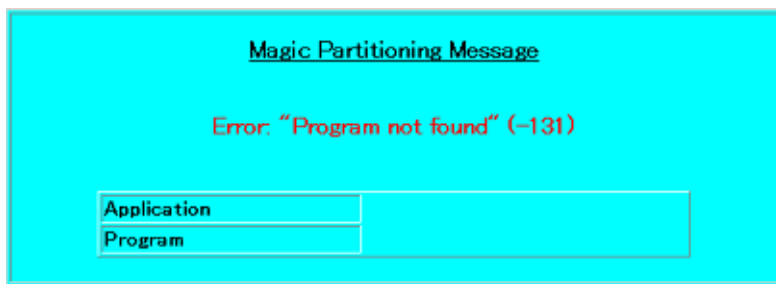


図 3-2

上記のようなブルーのエラーメッセージ (Program not found、バージョンによっては Messasing Server not found が表示されるものもあります) が表示されれば、Magic CGI リクエストは正常に動作しています。

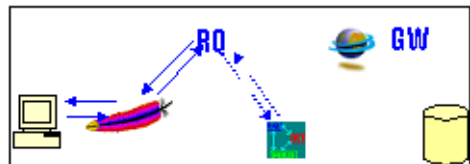
「ファイルが見つかりません」とエラーが表示される場合は、以下の項目をチェックしてください。

- ・ インストール時に設定した CGI のディレクトリの参照権限
- ・ URL 中のエイリアス名の間違い。(上の例では「/cgi-bin」の部分がエイリアス名です)
- ・ 実際に CGI を配置するディレクトリに mgrqcgi93 のファイルが存在しているか

MRB(Magic Requester Broker) の動作確認

このテストはローカルホスト (Linux) 上の MRB を使用する設定であると仮定しています。

Linux マシンに Magic ユーザでログインします。次のようにして MRB を起動します。



```
cd broker  
./mgrqmr &
```

ps コマンドで動作しているか確認してください。

```
$ ps
PID TTY      TIME CMD
1247 pts/1    00:00:00 bash
1288 pts/1    00:00:00 mgrqmr
1289 pts/1    00:00:00 mgrqmr
1290 pts/1    00:00:00 mgrqmr
1291 pts/1    00:00:00 ps
```

確認できましたら、クライアントのブラウザから

```
http://linuxhost/cgi-bin/mgrqcgi93?APPNAME=DUMMY&PRGNAME=DUMMY
```

と入力してください。(linuxhost は Magic をインストールしたホストの名前)



図 3-3

上記のように、「Application not supported by any Application」のエラーメッセージが出れば、MRB が正常に動作しています。

一つ前のテストと同じ「Messasing Serer not found」のエラーメッセージが表示される場合は、Magic CGI リクエストと MRB の間の接続がうまくいっていません。まず、MRB が終了/クラッシュしていないかどうか、ps コマンドで確認してください。/etc/hosts ファイルの設定が正しくないと「UNIX RETURN CODE 103」というエラーを出し MRB が終了していることがあります。

MRB が正常に稼動している場合、原因として各モジュールの設定が整合していないことが考えられます。

Web サーバの CGI ディレクトリ (例では /usr/local/cgi-bin) 以下の mgrqcgi93 と同じディレクトリにある「MGREQ.INI」に登録されているブローカーポート番号、ホスト、及びブローカーパスワードと、Magic ユーザのホームディレクトリ以下 broker/ 以下の「MGRB.INI」に登録されているブローカーのポート番号、パスワード、を確認してください。

なお、別のマシン上の MRB を使用している場合は、その MRB が使用している MGRB.INI ファイルの設定に合わせてください。

参考： ホームディレクトリ以下 sbin/ に、MRB 起動用のスクリプト「startb」と、MRB 停止用スクリプト「stopb」が提供されています。上記のテストで MRB の動作確認が出来た後は、こちらのスクリプトを使用して MRB の起動/停止を簡単に行うことができ

ます。

ライセンスサーバーの実行

Magic アプリケーション・サーバーエンジンを起動する前に、Magic の実行ライセンスを管理するライセンスサーバーを起動します。インストールした直後は、デモ用ライセンスが入っています。この手順書ではこのデモ用ライセンスを使用して動作確認を行います。

Magic ユーザのホームディレクトリ下の `license/` ディレクトリから、以下のスクリプトでライセンスサーバーを起動します。

```
cd license
./mglmstart
```

`ps` コマンドで `lmgrd` が起動していることを確認します。

```
$ ps -ef | grep lm
130  14883  1 0 18:12 pts/4  00:00:00 /u/mginsttest/license/lmgrd -c /
130  14972 14922 0 18:19 pts/4  00:00:00 grep lm
$
```

なお、ライセンスサーバーが使用するライセンスファイルは、`mglmstart` スクリプト中で `lmgrd` 実行時の `-c` オプションの後に指定されています。インストール直後の状態では、ホームディレクトリ以下の `etc/` にある「`license.dat`」が使用されるようになっていきます。

注意： 本書での動作確認後、製品ライセンスを登録してください。Magic eDeveloper Ver.9 (Windows 版) に添付されているライセンスマネージャーで「他の PC ライセンス」ボタンをクリックすることにより、Linux サーバー用のライセンスファイルを作成することができます。作成後、ホームディレクトリ以下 `etc/` に `ftp` などで転送してください。はじめにあったデモ用の `licensedat` はリネームして保存しておくことを推奨します。ライセンスの登録手順は、第6章「ライセンスの登録」を参照してください。

Magic アプリケーション・サーバーエンジンの起動テスト

Magic ユーザのホームディレクトリから以下のようにして、エンジンが起動します。

```
magicrnt &
```

`ps` コマンドで `magicrnt` というプロセスが起動していることを確認してください。通常は複数のプロセスが起動しています。

この時点でエンジンが起動していない場合、その原因の多くはライセンスの設定によるものです。エンジンを起動したディレクトリ (Magic ユーザのホームディレクトリ) の下の `log` ディレクトリに `mgflwmtr.log.xxxx` というログファイルがあります。ライセンスエラーの場合、このファイルに「`ABNORMAL TERMINATION: License error`」という記述があります。

ライセンスエラーの場合は、ホームディレクトリ以下の `etc/` にある `MAGIC.INI` ファイルの中の「`LicenseFile`」で指定されているライセンスサーバー名やポート番号が合っているか、「`LicenseName`」で指定しているライセンス名が登録したものと同じになっているかどうかを確認してください。

libxerces-c1_6_0.so のファイルが無い、というエラーが出る場合があります。このファイルはホームディレクトリ以下の lib/ で提供されていますが、ライブラリが見つからないのは LD_LIBRARY_PATH の環境変数パスにこのディレクトリが登録されていない事が原因です。ホームディレクトリにある「.cshrc」または「.profile」中にある LD_LIBRARY_PATH の設定部分を修正し、Magic ユーザでログインしなおしてから、再度起動を試みてください。

参考： * ホームディレクトリ以下 sbin/ に、エンジン起動用のスクリプト「mgrnt」と、エンジン停止用スクリプト「stopm」が提供されています。上記のテストでエンジンの動作確認が出来た後は、こちらのスクリプトを使用してエンジンの起動/停止を簡単に行うことができます。

エンジンの起動が確認できましたら、sbin/stopm スクリプトを実行してエンジンを終了させておいてください。

3

データベースゲートウェイのロードテスト (Oracle 用ゲートウェイ)

重要： Oracle ゲートウェイを使用するには、ローカルホスト (Linux マシン) に Oracle クライアント (8.1.7 以上) がインストールされており、sqlplus が正常に実行できることが前提となります。



Oracle ゲートウェイの動作確認の前

に、Magic ユーザの .login, .cshrc, .profile などの環境設定ファイルに Oracle の設定を追加して、Magic ユーザが sqlplus で Oracle に接続できる状態に調整しておいてください。以下の作業は、sqlplus で Oracle に接続できることを確認した後で行ってください。

インストール直後の状態では、Oracle 用のゲートウェイは使用しない設定になっています。Linux 用エンジンでは使用するゲートウェイは環境変数で設定します。ホームディレクトリ以下 etc/ の「mgenv」ファイルを編集します。

```
# Magic DBMS gateways

#MAGIC_DB_14_DRIVER=$MAGIC_HOME/bin/mgoracle8    ← 先頭の#を取ります。
#MAGIC_DB_15_DRIVER=$MAGIC_HOME/bin/mginformix
#MAGIC_DB_19_DRIVER=$MAGIC_HOME/bin/mgdb2
MAGIC_DB_22_DRIVER=$MAGIC_HOME/bin/mgmemory

:
```

Oracle ゲートウェイには 14 番が割り当てられていますので、上記のように、MAGIC_DB_14_DRIVER の環境変数に Oracle ゲートウェイを指定します。上記ファイルでは先頭の # を削除した上、Magic ユーザで再ログインすることでこの環境変数が設定されます。もちろん、シェルコマンドで直接設定しても構いません。

なお、現在 Magic でサポートしているのは Oracle ゲートウェイだけです。他のゲートウェイは現在使用できません。

環境変数が設定されていることを確認します。

```
$ env | grep MAGIC_DB
MAGIC_DB_14_DRIVER=/u/magicadm/bin/mgoracle8
MAGIC_DB_22_DRIVER=/u/magicadm/bin/mgmemory
$
```

現在稼働中のエンジンがあれば、一旦停止します。ホームディレクトリから以下のコマンドを使用します。

```
./sbin/stopm
```

エンジンを起動します。

```
./sbin/mgrnt
```

正常に起動すれば、`ps` コマンドで "magicrnt" のプロセスが表示されます。起動時に何らかのライブラリファイルが無いとのエラーが出る場合、Oracle が提供するライブラリへのパスが通っていないことが原因と考えられます。Oracle をインストールしたディレクトリ以下にエラーで表示されたファイルを探し、そこへのパスが通るように環境変数を設定しなおしてください。

ホームディレクトリに「mgflwmtr.log.xxxx (xxxx は PID)」というログファイルが出来ています。中を確認し、「Magic Gateway for ORACLE, Oracle 8, Version 9.3-9.X XX-XX-200X」という記述を探します。その他のエラーが無いことを確認します。

ここまでで、基本モジュールの設定／動作確認が終わりました。一旦エンジンを停止してください。

```
./sbin/stopm
```

引き続き、デモアプリケーションを使用した動作確認を行います。

デモ用アプリケーションの起動と動作確認 4

(インストール時にデモのセットアップを行った場合のみ参照してください。)

ここでは、本手順書でこれまでに行った動作確認が終了しているという前提に立っています。MRB とライセンスサーバーが起動されている事を確認してください。

デモアプリケーションの起動

デモアプリケーションを起動します。デモ用のディレクトリ (magic9demo/) で以下の起動スクリプトを実行してください。

```
.$ cd VerifyDemo
$ ./startDemo.sh

Start Magic 9 Verify Install Demo

This demo contain simple browser client application and HTML Web application..
```

4

デモアプリケーションの MRB への登録確認

コマンドライン・リクエスタを使用して、デモ用のアプリケーションが MRB に登録されているかどうか確認します。ホームディレクトリから下記のように verifyinstall が登録されていることを確認して下さい。



```
$ cd
$ ./broker/mgrqcmdl -PORT=3200 -QUERY=APP (ポート番号はインストール時に選
択した MRB のポート番号。)
```

Applications supported by (rh71osaka/3200)

```
-----
#   Application           AppServer
=====
```

1	verifyinstal	linuxhohst/1501
---	--------------	-----------------

ブラウザからのアプリケーションの実行

デモアプリケーション呼出し用 HTML ファイルを表示します。URL アドレスに

```
http://linuxhost/mgVerifyDemo/verifyinstall.html
```

と入力します。

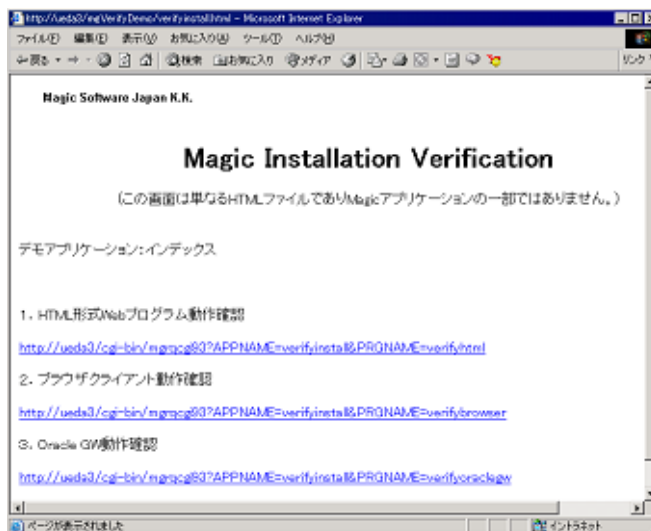
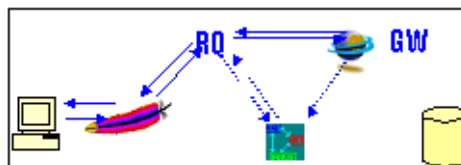


図 4-1

上記のような画面が表示されます。この画面は Magic アプリケーションではありませんが、以降の動作確認用 URL にリンクされています。URL はデモのセットアップ時に適切な URL に書き換えられていますが、この画面からのリンクがうまくいかない場合は、以降の手順ではブラウザのアドレス欄に直接 URL をタイプしてください。

HTML 形式 Web プログラム動作確認

上記インデックス画面から一つ目のリンクをクリックするか、ブラウザの URL アドレスに



```
http://linuxhost/cgi-bin/mgrqcgi93?appname=verifyinstall&prgname=verifyhtml
```


と入力します。



4

図 4-2

上記のようなデモ画面が表示されれば、デモアプリケーションは正常に起動しています。Parameter 欄に適当な値を入れ、Magic プログラムに送信させることができます。Feedback 欄に値が返ってくる事を確認してください。

ブラウザクライアント・プログラムの動作確認

インデックス画面から二つ目のリンクをクリックするか、ブラウザの URL アドレスに

`http://linuxhost/mgVerifyDemo/verifyinstall.html`

と入力します。

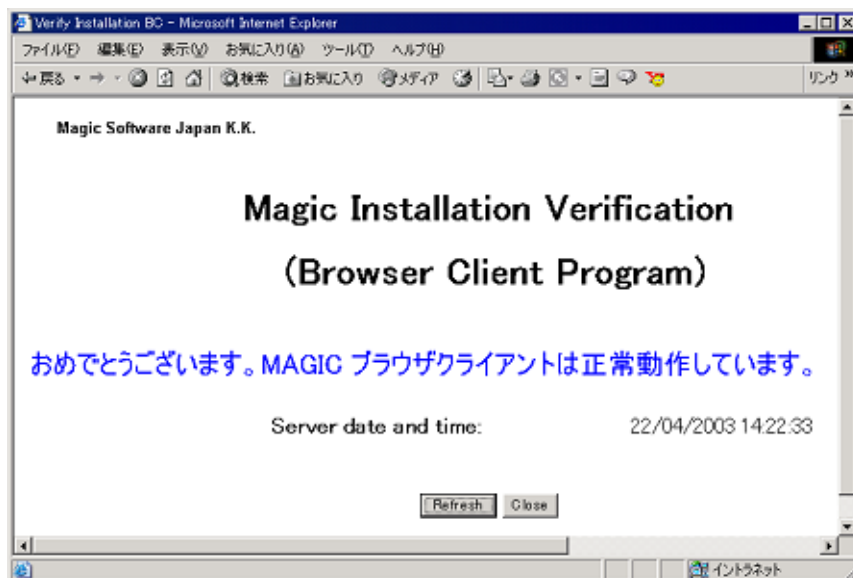


図 4-3

上記デモアプリの画面が表示されます。なお、最初の画面では「おめでとうございます。Magic ブラウザクライアントは正常動作しています」のメッセージは表示されません。プログラムのロードが終了してから（ブラウザの画面下部メッセージラインに「アプレットは、開始しました。」と表示されます）、一度「Refresh」を実行して、クライアント側のモジュール動作が確認できればメッセージが表示されます。

「正常動作しています」のメッセージが現れない場合、あるいは上記画面が表示されているものの、スクリプトエラーが発生しオペレーションが出来ない場合は、ブラウザクライアントモジュールが正常動作していないことが考えられます。この場合、アプリケーションサーバとブラウザクライアントのバージョンが整合しているかどうかを確認する必要があります。

(例： Magic Application Server Version 9.30JSP5 に対応するブラウザクライアントのバージョンは 930_05J です。MGBC930_05J.cab、MGBC930_05JS.cab、MGBC930_05J.js、MGBCL930_05JPN.cab が Web サーバのユーティリティディレクトリに入っているかどうか確認してください。また、MAGIC.INI ファイル中の BrowserClientSubVersion の設定を確認します。デフォルトでは値は設定されていません。この欄に XX という値が設定されていた場合、先の例では MGBC930_03AJ_XX.cab などのファイル名と対応するようになります。)

最後に「Close」ボタンを押して、ブラウザクライアント・プログラムが正常終了する事を確認してください。終了後、スクリプトエラー等が発生せずに下記の画面が呼び出されていれば正常です。

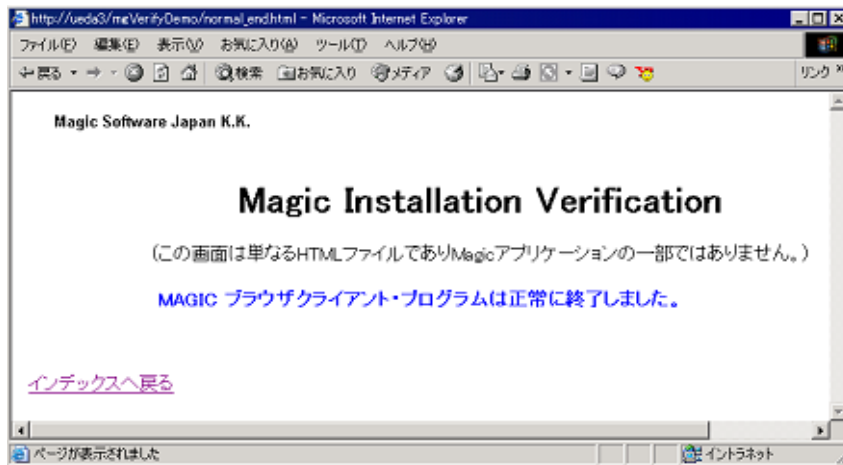
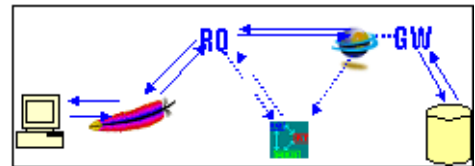


図 4-4

4

Oracle ゲートウェイの動作確認

インデックス画面から三つ目のリンクをクリックするか、ブラウザの URL アドレスに



`http://linuxhost/cgi-bin/mgrqcgi93?appname=verifyinstall&prgname=verifyoraclegw`

と入力します。

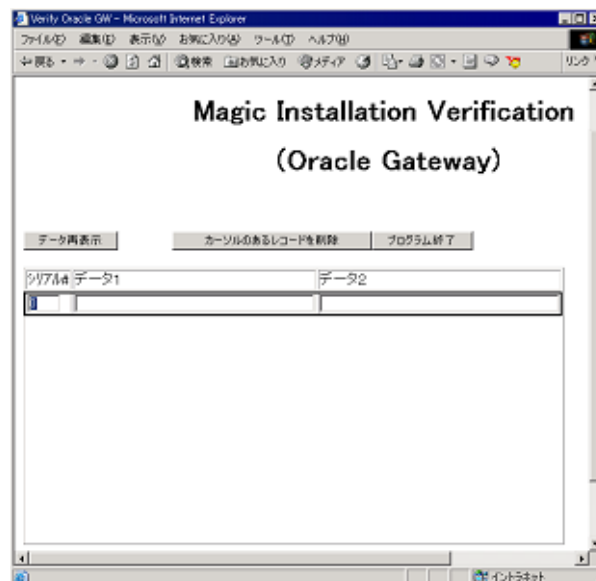


図 4-5

正常に動作していれば上記のような画面が表示されます。事前にテーブルを作成していない場合は、上記のようにデータが無い状態でプログラムが開始します。適当なレコードを入力、あるいは削除し、エラーが発生しない事を確認してください。ここで入力されたデータは実際の Oracle データベースに入力されています。一旦プログラムを終了後、もう一度このプログラムを実行して、先ほど入力したデータが実際に Oracle データベースに反映されていることを確認してください。



図 4-6

なお、上記のようなメッセージが出た場合、Oracle のユーザ権限がありません。デモのインストール時に入力した Oracle ユーザー名、パスワード（これらは `./VerifyDemo/VerifyDemo.ini` 中の `[MAGIC_DATABASES]` セクションで「Demo Database」のパラメータとして設定されています）をもう一度確認してください。

また、`sqlplus` でこのユーザ名を使用して Oracle データベースにアクセスできることを再確認してください。

Apache 用リクエストのインストールと設定

5

Magic Application Server Ver.9 for Linux では Magic CGI リクエストとは別に、Apache 用の専用リクエストが用意されています。このリクエストは CGI リクエストよりもパフォーマンスが優れています。Apache は DSO オプションを使用してコンパイルされていることが条件となります。DSO オプションを確認するには root ユーザーで

```
httpd -l
```

を実行し、`mod_so.c` が含まれていれば DSO は有効です。

リクエストモジュールファイルの配置

Apache がインストールされているディレクトリへ、Magic リクエストモジュールを配置します。ディレクトリはデフォルトで `/usr/local/httpd/libexec/` です。（ただし、Redhat 7.X では `/etc/httpd/modules/` のディレクトリが使用されます。お使いの Apache リクエストの環境設定に合わせて適切なディレクトリへ配置してください。）配置後、ファイルに実行のパーミッション（権限）を与えて下さい。なお、モジュールのファイルはホームディレクトリ以下 `cgibin/` ディレクトリに格納されています。

リクエストモジュールのファイルは 2 種類あります。

- `mod_mgrequest93.so`……SSL サポートのある Apache で使用します。通常はこちらを使用します。
- `mod_mgrequest93.so.NO_EAPI`……SSL サポートの無い Apache で使用します。

EAPI オプションがあるかどうかは、

```
httpd -V
```

コマンドで確認できます。

Apache 設定ファイルの変更

下記の記述を Apache の設定ファイル `httpd.conf` に追加します。

なお、下記の記述はインストール時に ホームディレクトリ以下 `web_utils/` ディレクトリの `magic.conf` の末尾にコメントアウト付きで記述されています。本書の手順通りにインストールした場合は、すでにこの記述は `httpd.conf` に追加されていますので、末尾のコメントアウトを外してください。

```
LoadModule mgrequest9_module libexec/mod_mgrequest93.so ←モジュールのパスを
確認してください。

<Location /mgrequest9>
    SetHandler mgrequest9-handler
</Location>

SetEnv MGREQ_INI_PATH /usr/local/apache/cgi-bin ← sMGREQ.INI の配置場所
```

`MGREQ_INI_PATH` に指定するディレクトリは、Apache 用リクエストが使用する `MGREQ.INI` があるディレクトリを指定します。デフォルトでは Magic CGI リクエストが使用する `MGREQ.INI` ファイルと同じものを使用するようになっています。

以上で設定は終了です。Apache を再起動すればリクエストが使用できます。

MAGIC.INI の変更

Apache 用リクエストを使用する場合、アプリケーションが使用する `MAGIC.INI` ファイルの `InternetDispatchPath` を次のように変更します。

```
InternetDispatcherPath= /mgrequest9
```

Apache リクエストの動作確認

CGI リクエストを呼び出す場合と、Apache リクエストを呼び出す場合、URL の指定方法が異なります。

CGI リクエストの場合

例：

```
http://hostname/cgi-bin/mgrqcgi93?appname=dummy&prgname=dummy
```

Apache リクエストの場合

例：

```
http://hostname/mgrequest9?appname=dummy&prgname=dummy
```

CGI リクエストとの違いはこの部分だけですので、以後の動作確認は第 3 章「Magic CGI リクエストの動作確認」と同じ手順で行ってください。

ライセンスの登録

6

本書での動作確認後、製品ライセンスを登録してください。ライセンスの登録は、Windows 版 Magic eDeveloper Ver9 に添付されているライセンスマネージャーで行います。以下ライセンス登録の手順を説明いたします。

ホスト ID の確認

ライセンスの登録には、ライセンスサーバを実行する PC のホスト ID が必要です。ライセンスサーバを起動したときのディレクトリ (`license/`) より、以下のようにライセンスサーバ用のユーティリティを実行して下さい。

```
./lmutil lmhostid
```

または、

```
./lmhostid
```

これによって、以下のように表示されます。

```
lmutil - Copyright (C) 1989-1999 Globetrotter Software, Inc
The FLEXlm host ID of this machine is "XXXXXXXXXXXXX"
```

上記表示の "XXXXXXXXXXXXX" という 12 桁の値がホスト ID になります。

ユーザ登録申請

Windows 版の「インストールガイド」の第 2 章「ライセンスの登録手順」を参考にしてユーザ登録申請を行い、「ライセンスコード」と「Activation Key」を入手して下さい。

ライセンス登録

1. Windows 版の Magic Ver.9 がインストールされている PC より、ライセンスマネージャを実行し、「他の PC ライセンス」ボタンをクリックしてください。

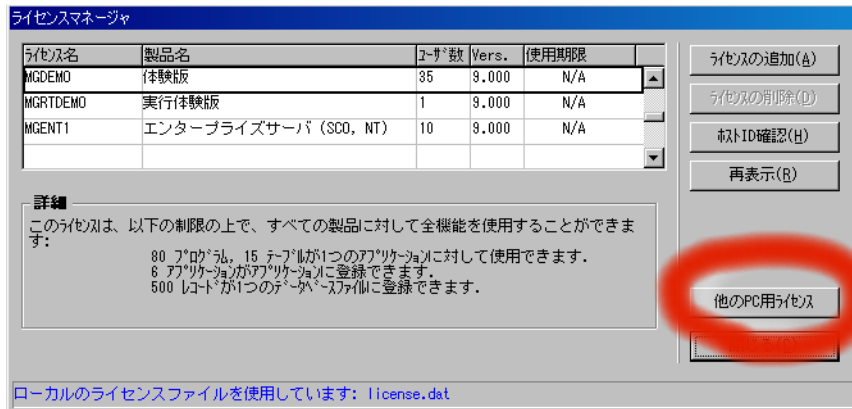


図 6-1 ライセンスマネージャー

2. ライセンスファイルを指定するダイアログが表示されます。すでに Linux 版のライセンスが登録されているライセンスファイルがある場合は、そのファイル名を指定して下さい。新規登録する場合は、デフォルト (license.lnx) のまま [実行] ボタンをクリックして下さい。ライセンスの編集用ウィンドウが表示されます。

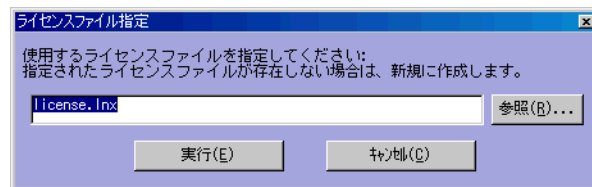


図 6-2 ライセンスファイルの指定

- [ホスト ID 変更] というボタンをクリックして下さい。ホスト名とホスト ID を入力するダイアログが表示されます。ここでは、Linux サーバのホスト名とホスト ID を入力して下さい。この内容はライセンスファイルに反映されます。入力したら [更新] ボタンをクリックして下さい。

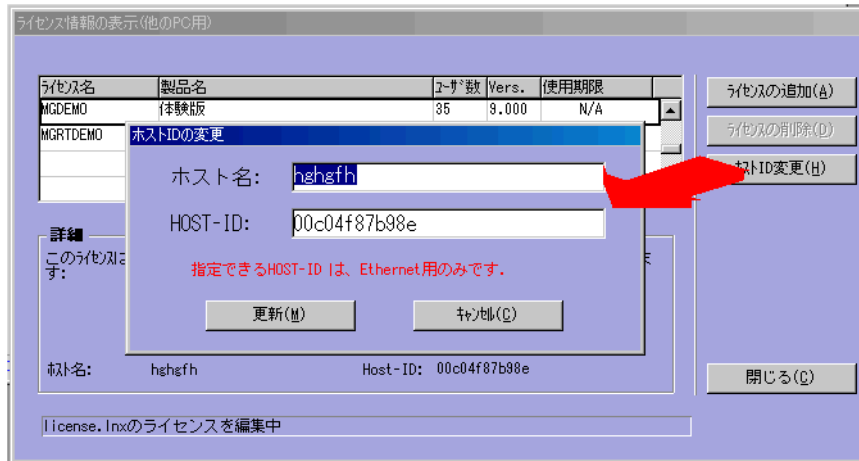


図 6-3 ホスト ID の変更

- [ライセンスの追加] ボタンをクリックして下さい。ライセンス登録のダイアログが表示されます。ユーザ登録申請で取得した情報を入力し、[ライセンスの確認] ボタンを押して下さい。

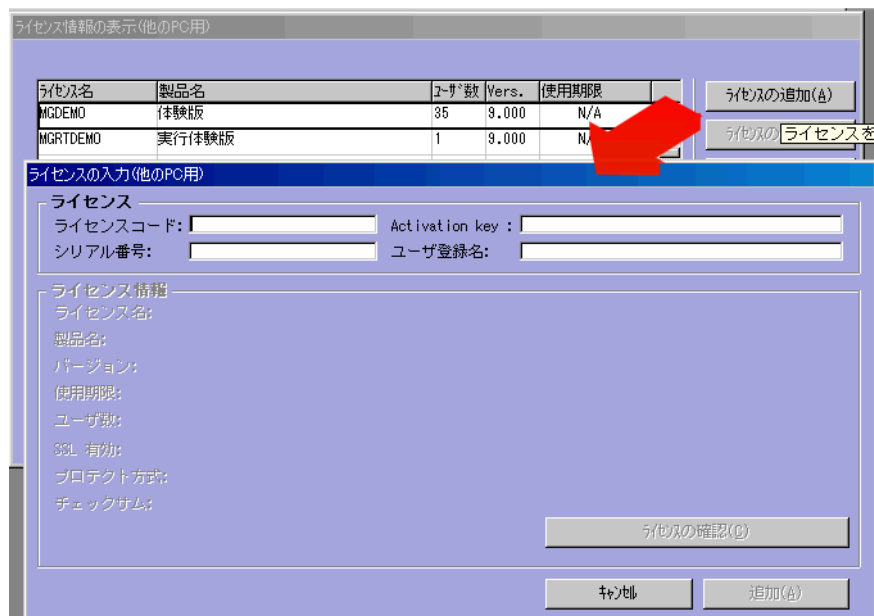


図 6-4 ライセンス登録

- ライセンス内容が正しければその旨のメッセージが表示され、[追加] ボタンが有効になります。[追加] ボタンをクリックすることでライセンスが追加されます。(ライセンス登録の詳細は、Windows 版のインストールガイドも併せて参照して下さい。)

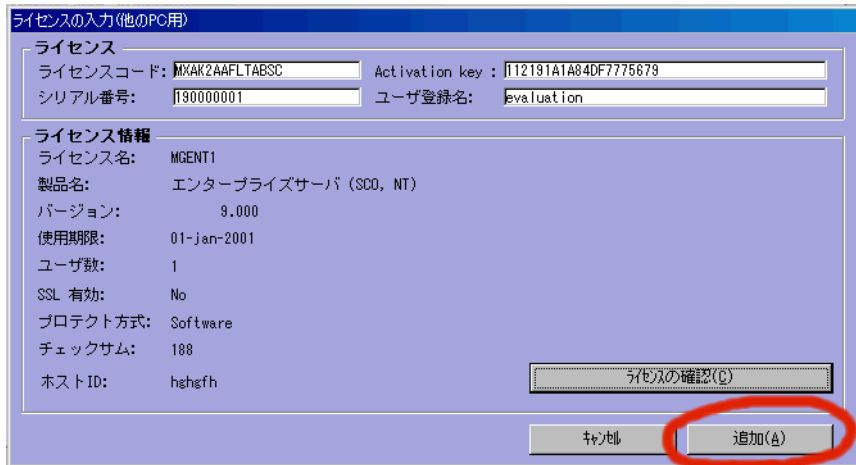


図 6-5

- 作成したライセンスファイル (license.lnx) を Linux サーバに ftp などを使用して転送して下さい。転送先は、Magic のホームディレクトリ内の etc/ サブディレクトリで、ファイル名を license.dat にリネームして転送して下さい。(その際、はじめにあったデモ用の licensedat はリネームして保存しておくことを推奨します。)
- なお、ファイル転送にアスキーモードで転送すると、漢字コード変換が行われ、ライセンスが無効になる場合があります。このような場合はバイナリモードを使用して転送してください。

追加されたライセンスは、ライセンスサーバが再起動しないと有効になりません。いったん、mglnstop スクリプトを実行してライセンスサーバを停止し mglnstart スクリプトで再起動して下さい。

Windows 版のライセンスサーバを使用する場合

Linux 版のライセンスサーバを使用しないで、Windows 版のライセンスサーバを使用することが可能です。

Host ID は、通常の Windows 製品と同様にライセンスサーバを実行させる PC で Host ID を取得し、ライセンス登録を行います。インストールの方法や登録方法については、Windows 版のインストールガイドを参照してください。

注意： Windows 版のライセンスと Linux 版の Magic ライセンスは、共に「MGENT1」になります。

Linux 版のライセンスを Windows 版で使用、又はその逆を行うことはできません。Windows 版、Linux 版を混在して使用する場合は、それぞれが使用するライセンス (スレッド) 数の合計を Magic.Ini の MaxConcurrentRequests で調整してください。

(例)

Windows 版 10 スレッド、Linux 版 5 スレッド、合計 15 スレッドの場合

- Windows……3 スレッド + 3 スレッド + 4 スレッド (3 インスタンス: 10 スレッド使用)
- Linux……3 スレッド + 2 スレッド (2 インスタンス: 5 スレッド使用)

アプリケーションの登録

7

ここではデモによる動作確認が正常に終了した前提で、Windows 版の Magic eDeveloper にて開発したアプリケーションを Magic Application Server for Linux で実行する手順について説明いたします。なお、現在 Oracle のみが DBMS としてサポートされていますので、Windows 版で開発する際には Oracle を使用したアプリケーションを開発してください。

CTL ファイルの準備

フラットファイルを使用する場合

Magic eDeveloper Ver.9 にて開発した後、[ファイル] - [MFF 形式で保存] を実行し、MFF 形式 (Magic Flat File 形式) にてファイルを保存します。

注意 : MFF ファイルを使用するには、Magic eDeveloper と Magic Application Server for Linux のバージョンが同じであることが必要です。例えば Windows 版の Ver. 9.30SP5 または SP5a で作成した MFF ファイルは Linux 版の 9.30SP5 上で実行することが可能ですが、Ver.9.30SP1 や 9.30SP3 で作成された MFF ファイルは Linux 版の 9.30SP5 上で実行することはできません。

5

MFF ファイルが作成されますので、ftp 等のツールを使用して Linux サーバー上の Magic のディレクトリへ転送します。MFF ファイルはバイナリファイルですので、ftp 等での転送の際にはバイナリモードで行ってください。

MCF ファイルを使用する場合

Magic eDeveloper Ver.9 にて開発する際、[設定] - [アプリケーション] のダイアログで、CTL ファイルを登録するデータベースを SQL データベース (Oracle のみ) に指定します。C-ISAM データベースは使用できません。

MAGIC.INI の設定

Windows 版で使用している MAGIC.INI の内容を参考に、Linux サーバー上の MAGIC.INI を設定します。

下記の例を参考にし、[MAGIC_SYSTEMS] セクションにアプリケーションの登録してください。

System1 = example1,e1,e1CTL.mff,14,oracle db,,N,N,Y

①

②

③

④

⑤

①アプリケーション名……Web アプリの場合、URL で指定するので半角英数字の使用を推奨します。

②識別子 (半角 2 文字)

③ファイル名……ファイル名を指定しない場合は、⑤の設定により xxCTL.mcf または xxCTL.mff が CTL ファイルとして指定されます。xx は②で指定したプレフィックス、CTL は大文字、mcf、mff は小文字であり、大文字・小文字が異なれば CTL ファイルが見つからずエラーとなるので注意してください。

④データベース名……ここで使用したデータベースは [MAGIC_DATABASES] に登録されているものです。Windows 版の MAGIC.INI より [MAGIC_DATABASES] セクションの必要な項目をコピーしてください。

⑤最後の項目が Y の時は MFF 形式のファイルを使用することを意味します。この場合、バイナリ形式ファイルの CTL を使用するので、④のデータベースの設定は無効になります。

その他、[MAGIC_DATABASES] セクション、[MAGIC_LOGICAL_NAMES] セクションなどから、アプリケーションで使用している項目をコピーしてください。

なお、MAGIC.INI に直接登録するのではなく、アプリケーション起動用のスクリプトファイルを作成する方法もあります。これに関しては、VerifyDemo/ ディレクトリの startVerifyDemo.sh、および VerifyDemo.ini の記述を参考にしてください。

コマンドラインリクエスト

A

コマンドラインリクエストは、以下が可能なリクエスト管理プログラムです。

- リモート Magic サービスの実行
- MRB と Magic 実行エンジンの管理 (MRB か Magic Application Server の起動と終了)
- Magic Application Server に送出された特定リクエストのステータスについて MRB に照会
- Magic Application Server のステータスについて MRB に照会

コマンドラインリクエストは、`broker/mgrqcmdl` ファイルから起動します。パラメータを指定せずに `mgrqcmdl` を実行するとヘルプが表示されます。

以下に主な使用方法とパラメータを示します。なお、MRB のポート番号はデフォルト値 (3200) の時は省略可能ですが、それ以外の値の場合は `-port=xxxx` という指定が必要となります。MRB が動作していない場合や MRB のポート番号が間違っている場合は「Error: "Messaging Server not found" (-102)」というエラーメッセージが表示されます。

5

- MRB のサービスに登録されている Magic Application Server を表示する。

```
mgrqcmdl -port=3200 -query=rt
```

- MRB のサービスに使用できる Magic アプリケーションを表示するには。

```
mgrqcmdl -port=3200 -query=app
```

- 別の Magic エンジンを読み込む。

RuntimeName は、MGRB.INI ファイルの [MRB EXECUTABLES LIST] セクション内のエントリ名です。

```
mgrqcmdl -exe=RuntimeName
```

- Magic Application Server を終了する。

EngineId は Magic Application Server のポート番号です。全て停止する時は ALL を指定します。

```
mgrqcmdl -terminate=EngineId
```

[このページは意図的に空白にしています。]

Magic Application Server for Linux Ver.9 インストールガイド

MAGIC

Magic Software Japan K.K.

Copyright 2003 Magic Software Enterprises Ltd.and Magic Software Japan K.K. All rights reserved.

第 1 版 2003 年 6 月 30 日

発行 〒 151-0053 東京都渋谷区代々木三丁目二十五番地三号

あいおい損保新宿ビル 14 階

Magic Software Japan K.K.